

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	専門学校桑沢デザイン研究所
設置者名	学校法人桑沢学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
デザイン専門課程	総合デザイン科 ビジュアルデザイン専攻	夜・通信	3,114 時間	80 時間×3＝ 240 授業時数	
	総合デザイン科 プロダクトデザイン専攻	夜・通信	3,174 時間	80 時間×3＝ 240 授業時数	
	総合デザイン科 スペースデザイン専攻	夜・通信	3,204 時間	80 時間×3＝ 240 授業時数	
	総合デザイン科 ファッションデザイン専攻	夜・通信	3,234 時間	80 時間×3＝ 240 授業時数	
	専攻デザイン科 ビジュアルデザイン専攻	夜・通信	1,152 時間	45 時間×2＝ 90 授業時数	
	専攻デザイン科 プロダクトデザイン専攻	夜・通信	976 時間	45 時間×2＝ 90 授業時数	
	専攻デザイン科 スペースデザイン専攻	夜・通信	888 時間	45 時間×2＝ 90 授業時数	
	専攻デザイン科 ファッションデザイン専攻	夜・通信	892 時間	45 時間×2＝ 90 授業時数	
(備考) 夜間部については、2021 年度よりデザイン専攻科から専攻デザイン科に名称変更をするとともに、カリキュラムについても変更を行った。専攻デザイン科ファッションデザイン専攻は 2025 年度入学生より、募集を停止している。					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.kds.ac.jp/about/disclosure/

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名

(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	専門学校桑沢デザイン研究所
設置者名	学校法人桑沢学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

学校法人桑沢学園公式ウェブサイトにおいて公表
<https://www.kuwasawa.ac.jp/message.html>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	JAGDA（公益社団法人日本グラフィックデザイナー協会）事務局長	2022.6.1 ～ 2026.5.31	法人運営体制のチェック機能
非常勤	東京造形大学名誉教授	2024.4.1 ～ 2027.5.31	法人運営体制のチェック機能
非常勤	アーティスト	2023.6.1 ～ 2027.5.31	法人運営体制のチェック機能
(備考) 学校法人桑沢学園公式ウェブサイトにて公表 https://www.kuwasawa.ac.jp/message.html			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	専門学校桑沢デザイン研究所
設置者名	学校法人桑沢学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。 (授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 授業計画(シラバス)は、全科目統一のフォーマットで作成しており、「授業概要」、「到達目標」、「授業計画」、「成績評価の方法」、及び「担当教員の実務経験」等について記載している。各科目は、この授業計画の記載内容に沿って授業を進めている。翌年度の授業計画は、11月～2月にかけて各分野から各科目の担当教員に作成を依頼し、各分野及び教務学生課で取りまとめ、授業運営委員会で審議後、3月中旬を目途にホームページに公開する。 授業計画(シラバス)は、ホームページで一般にも広く公開している。	
授業計画書の公表方法	
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。 (授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 成績は、授業科目ごとに、試験、レポート、提出作品、作品の制作プロセス・プレゼンテーション、出席、授業、グループ制作への参加姿勢を、総合的に評価して付与している。 成績評価は、秀(90～100点)、優(80～89点)、良(70～79点)、可(60～69点)、不可(0～59点)の5段階に区分し、秀、優、良、可を合格・履修として認定する。全ての授業科目において、全授業回数の3分の2以上の出席がないと未履修となり、進級・卒業は、在籍する各学科の教育課程の全ての必修科目を履修しなければならない。	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。 (客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 本校では、客観的な成績評価の指標としてGPA制度を導入し、算出方法等については、毎年全学生に配付している「キャンパスガイド」に掲載して周知している。 算出方法は、授業科目の成績評価に対して4～0までのGP(Grade Point)を与え、そのGPに各科目の授業時数を乗じた合計を、必修科目の総授業時数で割って算出した平均値をGPAとしている。GPAは、学期毎に配付している成績通知表に記載し、学生に通知している。 なお、以下の科目はGPA算出対象外としている。 1. 卒業・進級要件に含まれない自由選択科目 成績評価が「認定」の科目	
客観的な指標の 算出方法の公表方法	専門学校桑沢デザイン研究所公式ウェブサイトにおいて公表 https://www.kds.ac.jp/about/disclosure/
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。 (卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 本校は、ディプロマ・ポリシー(卒業認定の方針)を以下のように定め、公表している。 ▼ディプロマ・ポリシー 専門学校桑沢デザイン研究所は、未来に向かっての人間の精神的・物質的両面からの要求にデザインで応える人材の育成という教育理念に基づき、以下に示す知識、技術、能力などを身に着け、学則に定める卒業に必要な条件を満たした者に対して、卒業を認定し、総合デザイン科においては「専門士」の称号を付与します。 ・人間や文化、社会について広い視野を持ち、自ら課題を見つけ出すことができる。 ・感性、思考力、造形力など基礎的な能力を身に着け、デザインに応用することができる。 ・専門的な知識、技術などを身に着け、デザインによって課題の解決に取り組むことができる。 この卒業認定方針に沿って、各学科が定める所定の必修授業科目を、年次ごとに全て履修した者に対して、「卒業認定会議」において卒業を認定している。	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	専門学校桑沢デザイン研究所公式ウェブサイトにおいて公表 https://www.kds.ac.jp/nyugaku/guide/

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	専門学校桑沢デザイン研究所
設置者名	学校法人桑沢学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.kds.ac.jp/about/disclosure/
収支計算書又は損益計算書	https://www.kds.ac.jp/about/disclosure/
財産目録	https://www.kds.ac.jp/about/disclosure/
事業報告書	https://www.kds.ac.jp/about/disclosure/
監事による監査報告（書）	https://www.kds.ac.jp/about/disclosure/

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養関係		デザイン専門課程	総合デザイン科 ビジュアルデザイン専攻	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼	2484 単位時間／単位	480 単位時間／単位	2334 単位時間／単位	1080 単位時間／単位	単位時間／単位	単位時間／単位
			3894 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
600 人の内数		585 人の内数	131 人の内数	17 人の内数	156 人の内数	173 人の内数	

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養関係		デザイン専門課程	総合デザイン科 プロダクトデザイン専攻	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼	2544 単位時間/単位	600 単位時間/単位	2334 単位時間/単位	1020 単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位
			3954(単位時間/単位)				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
600 人の内数		585 人の内数	131 人の内数	17 人の内数	123 人の内数	140 人の内数	

分野		課程名	学科名	専門士		高度専門士	
文化・教養関係		デザイン専門課程	総合デザイン科 スペースデザイン専攻	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼	2454 単位時間／単位	690 単位時間／単位	2214 単位時間／単位	1020 単位時間／単位	単位時間／単位	単位時間／単位
			3924単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
600 人の内数		585 人の内数	131 人の内数	17 人の内数	133 人の内数	150 人の内数	

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養関係		デザイン専門課程	総合デザイン科 ファッションデザイン専攻	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼	2514 単位時間 / 単位	570 単位時間 / 単位	2394 単位時間 / 単位	1020 単位時間 / 単位	単位時間 / 単位	単位時間 / 単位
			3984 単位時間 / 単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
600 人の内数		585 人の内数	131 人の内数	17 人の内数	123 人の内数	140 人の内数	

分野		課程名	学科名	専門士		高度専門士	
文化・教養関係		デザイン専門課程	専攻デザイン科 ビジュアルデザイン専攻				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	夜	912 単位時間 / 単位	116 単位時間 / 単位	892 単位時間 / 単位	144 単位時間 / 単位	単位時間 / 単位	単位時間 / 単位
			1152 単位時間 / 単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
320 人の内数		224 人	0 人	6 人	49 人	55 人	

分野		課程名	学科名	専門士		高度専門士	
文化・教養関係		デザイン専門課程	専攻デザイン科 プロダクトデザイン専攻				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技

2 年	夜	928 単位時間/単位	56 単位時間/単位	728 単位時間/単位	192 単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位
		976(単位時間)/単位					
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
320 人の内数	224 人	0 人	2 人	19 人	21 人		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養関係		デザイン専門課程	専攻デザイン科 スペースデザイン専攻				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	夜	920 単位時間／単位	208 単位時間／単位	576 単位時間／単位	136 単位時間／単位	単位時間／単位	単位時間／単位
			920単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
320 人の内数		224 人	0 人	2 人	18 人	20 人	

分野		課程名	学科名	専門士		高度専門士	
文化・教養関係		デザイン専門 課程	専攻デザイン科 ファッションデザイン専攻				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	夜	460 単位時間 / 単位	32 単位時間 / 単位	384 単位時間 / 単位	44 単位時間 / 単位	単位時間 / 単位	単位時間 / 単位
			460 単位時間 / 単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数		総教員数
320 人の内数		224 人	0 人	2 人	9 人		11 人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
（概要） 様式第 2 号の 3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の 1. を参照	
成績評価の基準・方法	
（概要） 様式第 2 号の 3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の 3. を参照	
卒業・進級の認定基準	
（概要） 様式第 2 号の 3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の 4. を参照	
学修支援等	

(概要) 各授業の担任教員による講義内容に関するサポートを適宜実施している。 また、クラス制によりクラス担任による学修相談や学生生活相談、就職相談等も行っており、学習意欲のある学生へのサポートに加え、悩みを持った学生への支援も行い、全体的に学修支援を行っている。
--

昼間部

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
162 人 (100%)	3 人 (1.9%)	94 人 (58.0%)	65 人 (40.1%)
（主な就職、業界等）内定者の 80%以上がデザイナー職・企画職での採用。各種デザイン制作会社、各種メーカー企業（家電、自動車、玩具、文具、家具、ファッションアパレル）や建築設計事務所、空間ディスプレイ企業、IT 企業、広告会社など。			
（就職指導内容）就職セミナー（自己分析、業界研究、面接練習など）、学内企業説明会（オンライン開催）、キャリアカウンセリング、ポートフォリオ指導など。			
（主な学修成果（資格・検定等））資格取得は特にないが、授業課題が実践的であることから充実した就職活動用ポートフォリオを制作できることが学修成果となる。			
（備考）（任意記載事項） 内定者の 80%以上がデザイナー職・企画職での採用であり、メーカー企業よりもデザイン制作会社が就職先となる割合が高い。制作会社は、通年で採用活動をしている割合も多く、例年、卒業生数に対する就職者数の割合は、卒業後半年程度で 15%ほど上昇している。卒業後に 1 年間追跡調査した前年度の就職率は 80.1%であった。			

夜間部

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
108 人 (100%)	0 人 (0.0%)	50 人 (46.3%)	58 人 (53.7%)
（主な就職、業界等）直近の年度は内定者の 90%以上がデザイナー職・企画職での採用。各種デザイン制作会社、各種メーカー企業（家電、自動車、玩具、文具、家具、ファッションアパレル）や建築設計事務所、空間ディスプレイ企業、IT 企業、広告会社など。			
（就職指導内容）就職セミナー（自己分析、業界研究、面接練習など）、学内企業説明会（オンライン開催）、キャリアカウンセリング、ポートフォリオ指導など。			
（主な学修成果（資格・検定等））資格取得は特にないが、授業課題が実践的であることから充実した就職活動用ポートフォリオを制作できることが学修成果となる。			
（備考）（任意記載事項） 直近の年度は内定者の 90%以上がデザイナー職・企画職での採用であり、メーカー企業よりもデザイン制作会社が就職先となる割合が高い。制作会社は、通年で採用活動をしている割合も多く、例年、卒業生数に対する就職者数の割合は、卒業後半年程度で 15%ほど上昇している。卒業後に 1 年間追跡調査した前年度の就職率は 74.2%であった。ま			

た、夜間部は就業しながら通学している学生も多数在籍していることから、就職希望者の割合は昼間部と比べて 10%程度少ない傾向にある。

昼間部

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
569 人	17 人	3.0%
(中途退学の主な理由) 経済的理由による修学継続困難、体調不良、進路変更等		
(中退防止・中退者支援のための取組) 教員によるオフィスアワーやカウンセラーとの相談窓口を用意し、相談や悩みのある学生に対して、早期解決を図ることができるよう努めている。また、成績・時間割・出席状況等を閲覧することができる学生情報管理システム (School Leader) について学生だけでなく、保証人も別パスワードにて閲覧可能としている。これにより、保護者 (保証人) が学修状況を把握し学生の変化に気付けるようにしている。		

夜間部

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
247 人	14 人	5.7%
(中途退学の主な理由) 経済的理由による修学継続困難、体調不良、進路変更等		
(中退防止・中退者支援のための取組) 教員によるオフィスアワーやカウンセラーとの相談窓口を用意し、相談や悩みのある学生に対して、早期解決を図ることができるよう努めている。また、成績・時間割・出席状況等を閲覧することができる学生情報管理システム (School Leader) について学生だけでなく、保証人も別パスワードにて閲覧可能としている。これにより、保護者 (保証人) が学修状況を把握し学生の変化に気付けるようにしている。		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考（任意記載事項）
総合デザイン科	300,000 円	900,000 円	380,000 円	
専攻デザイン科	165,000 円	490,000 円	140,000 円	
	円	円	円	
	円	円	円	
修学支援（任意記載事項）				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 専門学校桑沢デザイン研究所公式ウェブサイトにおいて公表 https://www.kds.ac.jp/about/disclosure/		
学校関係者評価の基本方針（実施方法・体制） 自己評価報告書、参照資料、訪問調査、意見交換の実施に基づき、自己評価の結果及びそれを踏まえた今後の改善方策について評価を行い、評価書原案を作成し、学校に提出することで、自己評価結果の客観性、透明性を高め、学校運営の改善に資するものとする。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
デザイン会社 代表取締役	2024. 4. 1～2026. 3. 31	デザイン関連業界等関係者
元県立高等学校 副校長	2024. 4. 1～2026. 3. 31	教育に関し知識を有する者
美術館 アソシエイトディレクター	2024. 4. 1～2026. 3. 31	デザイン関連業界等関係者
公益財団法人 部長	2024. 4. 1～2026. 3. 31	教育に関し知識を有する者
総合ディスプレイ会社 勤務	2024. 4. 1～2026. 3. 31	卒業生
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 専門学校桑沢デザイン研究所公式ウェブサイトにおいて公表 https://www.kds.ac.jp/about/disclosure/		
第三者による学校評価（任意記載事項）		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)

<https://www.kds.ac.jp/>

(別紙)

- ※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。
- ※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	H113311300050
学校名（〇〇大学 等）	専門学校桑沢デザイン研究所
設置者名（学校法人〇〇学園 等）	学校法人桑沢学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等（内数） ※家計急変による者を除く。		84 人（－人）	80 人（－人）	76 人（－人）
内 訳	第Ⅰ区分	44 人	43 人	
	（うち多子世帯）	（ 人）	（ 人）	
	第Ⅱ区分	25 人	17 人	
	（うち多子世帯）	（ 人）	（ 人）	
	第Ⅲ区分	11 人	16 人	
	（うち多子世帯）	（ 人）	（ 人）	
	第Ⅳ区分（理工農）	0 人	0 人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	－ 人	－ 人	
	区分外（多子世帯）	0 人	0 人	
家計急変による 支援対象者（年間）				0 人（ 人）
合計（年間）				76 人（ 人）
（備考）				

- ※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。
- ※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	- 人	0 人	0 人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当)	0 人	0 人	0 人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	0 人	0 人	0 人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	0 人	0 人	0 人
計	- 人	0 人	0 人
(備考) 「右以外の大学等」欄には修業年限3年以上の学科の人数を、「短期大学(修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。）及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。）」欄には修業年限2年以下の学科の人数を、それぞれ記入。			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
年間	0人	前半期	0 人 後半期 0 人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学(3月未満の期間のものに限る。)又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。)&及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。)		
	年間	前半期	後半期	
GPA等が下位4分の1	0人	0人	0人	

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。)&及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。)		
	年間	前半期	後半期	
修得単位数が「警告」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が警告の基準に該当)	0人	0人	0人	
GPA等が下位4分の1	-人	0人	0人	
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	0人	0人	0人	
計	-人	0人	0人	
(備考)				

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。